

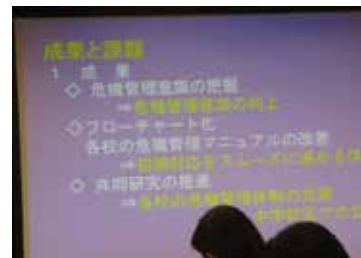
第38回東北地区小中学校教頭会研究大会宮城大会 報告
青森市立造道中学校 高村 浩樹

大会主題 『豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育』
(第11期初年度全国統一研修主題)

開催期日 平成30年11月8日(木)～9日(金)
開催地 宮城県仙台市
会場 分科会 仙台国際ホテル TKPガーデンシティテール仙台
全体会・記念講演 仙台サンプラザホール
日程 11月8日(木) 分科会3「教育環境整備」参加
11月9日(金) 全体行事、記念講演、閉会行事

◆第1日目:研究課題「教育環境整備」3分科会

テーマ「児童・生徒の安全を守る取組に副校長としてどう関わればよいか」
岩手県和賀地区小中学校副校長会 北上市立和賀東中学校 副校長 山陰 深思



【研究内容・協議】

- 1 危機管理マニュアルに関する実態調査及び課題の把握
 - ①危機管理マニュアルが教職員の周知や使いやすさアンケート
 - ②危機管理マニュアルの課題と改善点の把握
特に管理職不在でも対応できる体制の整備
- 2 改善の進め方
 - ①北上市立いわさき小学校作成を基に各校でフローチャート化
 - ②フローチャートの活用法
緊急時、素早く持ち出せるように職員室の所定場所に配置
初期対応について、会議等で共通理解
- 3 実践による検証
 - ①保護者・地域への周知
年度初め、保護者・地域向け文書の配布→事故発生時の学校対応の説明
 - ②A 中学校の避難訓練の実践 管理職不在設定の避難訓練
 - ③B 小学校の熊出没時の実践 集団下校対応のフローチャートの柔軟性
 - ④C 中学校の校内研修会の実践 未然防止策、防犯用具、情報伝達、避難誘導

【研究成果と課題】

- 危機管理マニュアルの見直しで、職員の危機管理意識が高まった。
- フローチャート化(視覚化)で、初期対応がスムーズに進められた。
- 保護者や地域を巻き込んだ危機管理マニュアルを作成し、運用できた。
- 全教職員の参画を促し、危機管理意識を高めるためのリーダーシップを発揮
- 危機管理マニュアルの実際の活用場面を想定し、見直し・改善に取り組むこと

【指導・助言】仙台市立郡山中学校長 齋藤 亘弘

- ・日頃の危機管理の中で、どの辺りが危険なのか話題にし、危機意識を高めることが重要。
- ・自然災害は、適切な判断←情報の一元化
- ・まさかを想定すべき→有事危機は「命」を優先

テーマ「地域社会との連携・協働による教育活動の充実に向けた教頭の役割」(宮城県)
～コミュニティスクール(CS)における地域の特色を生かした実践を通して～
宮城県登米市小中学校教頭会 登米市立東和中学校 教頭 皆川 和義

【研究内容・協議】

1 各校の実践(21校)の現状と意識調査

①担当者：教務主任か地域連携担当、管理職は保護者へPTAや学校HP紹介

②学校運営協議会年3～5回実施、保護者代表・地域諸機関代表・学校評議員

学校運営と努力事項、地域の力をどう生かすか、学校行事、10年後子供の姿

③ボランティア活動 登下校安全指導、校内環境整備、郷土学習、授業補助

④成果 学校と地域が情報共有でき、地域課題の解決を協働で行えた

⑤課題 CSの立ち上げ 担当者の事務負担増、委員の確保問題

2 CS準備校(11校)

①教職員理解、保護者・地域への情報発信もリーフレットや学校だよりでの周知

②委員の組織 実施校と同様で、子供や学校課題について話し合い

③学校支援ボランティアの活用も実施校と同様

④次年度実施に向けて、学校改題解消に向けて実施可能な活動の明確化、ボランティアの人手不足、地域・学校双方のメリットがある取組等

3 調査結果からの考察

①教職員へのCSの正しい理解と運営体制の確立が必要

②学校運営協議会の会議の精選

③地域社会との連携・協働による教頭の役割

学校教育目標実現、校長の経営方針、学校課題や取組を具体的に提示、理解を図りながら協議会を運営、決定事項を推進

地域の特色を生かして、信頼づくりが必要、そのための連絡調整、課題整理、解決への提案などが大切

【研究成果と課題】

○登米市内小中学校の運営状況や地域の特色を生かした取組や課題と情報共有、方向性や内容が深められた。

●「社会に開かれた教育課程」の編成をCSとしての視点を生かした改善

【指導・助言】仙台市立郡山中学校長 齋藤亘弘

・CSは何のための組織で、どんなことができるのかを共通理解

・学校、家庭、地域の役割をはっきりさせる。

・教職員の参画意識が大切

◆第2日目：全体行事・講演会・閉会行事

会場 仙台サンプラザホール（仙台市宮城野区榴岡 5-11-1）

講演会『楽しく科学・伝える防災』

講師 防災士、防災キャスター 阿部清人氏

・東日本大震災が発生した当時のラジオ中継の話や身近な防災グッズを紹介する。

・科学実験と地震メカニズムや災害予防するために役立つ知識が身に付く「防災エ ンスショー」(防災+サイエンス)を展開し、今後の防災を提案した。

